

授業「乳児保育 I」における学生の学びと気づきについて

～伝承遊びの発表に焦点を当てて～

和田 幸子

I. 問題意識と目的

0～18才の乳児、幼児、児童の保育に当たる保育士のうち、大多数は保育所で0～6才の乳幼児の保育を行う。保育所での保育は3,4,5才児の幼児の保育と、0,1,2才児の乳児の保育に分けられ、それぞれに特別な配慮が求められる。幼児期は運動機能が発達し、盛んな会話で仲間関係が広がり活発に活動していくのに対して、乳児は養育者や保育者に関わってもらうことによって自らの身体、居場所、感情に気づき、周囲に応えようとしていく。そこで乳児期の保育を担当する保育士は、一人一人のこどもの食事、排泄、生活リズムなどの発達を支え、健康、安全への気配りをしながら、乳児期の生活に即した保育内容と環境づくりをしていく必要がある。保育士はそのような乳児の育ちの過程を支えるべく具体的な手だてを考え実践するのである。

保育士養成教育においてはそのことへの導入が求められる。「乳児保育」は保育士養成教育における保育士資格取得のための必須科目として位置づけられているのだが、乳児の育ちを支えるべく、乳児の生活に即した関わりを学ぶにはどのような授業が求められるのだろうか。

保育士養成のための科目「乳児保育」では授業開発の先行研究がみられる。稲貝は授業「乳児保育」において、3歳未満のこどもの発達を促すおもちゃ作りと作品展示報告を行うことによって学生の乳児保育への関心の深まりを目指し、乳児の活動のあり方に気づかせようとしている¹⁾。安田は、小麦粉粘土を使用した保育指導計画の立案を行い、環境設定や保育者の援助をイメージさせようとした。その結果、乳児クラスでの保育実習未経験者に比べ経験者の立案する保育指導計画は乳児の発達を理解し配慮した環境設定となっていると報告している²⁾。両者ともに、乳児保育においてこどもの発達段階をとらえることの困難と、保育内

容選定の困難に問題意識を置き、こどもの発達に沿い、興味を持たせ、活動を充実させられるような関わり方の習得を目指している。

本稿でとりあげる「乳児保育 I」は、本学短期大学部こども保育学科1年前期に開講した^{注1)}。この授業では、えかきうたと伝承遊びの発表会をした。そこでの学生の学びと気づきを整理することによって、授業「乳児保育 I」で伝承遊びを取り上げる意義を提示することを本稿の目的とする。

II. 授業内で伝承遊びを取り上げることについて

1. 対象とする授業について

2014年度前期「乳児保育 I a」「乳児保育 I b」は、それぞれ33、32名の受講者で同じ曜日に開講し、いずれも筆者が担当した。本授業の到達目標は以下の3点である。

- i 乳児は養育者や保育者に関わってもらうことによって育つ存在であることを知る
- ii 乳児期のこどもの食事、排泄、生活リズムなどの発達と援助、健康、安全について知る
- iii 乳児の発達に即した保育内容と環境づくりを理解する

15回の授業内容は下記の通りである。

1. こどもが生まれるということ
2. 乳児の発達と保育内容 (6ヶ月未満)
3. 乳児の発達と保育内容 (6ヶ月～1歳3ヶ月頃)
4. 乳児の発達と保育内容 (1歳3ヶ月～2歳頃)
5. 乳児の発達と保育内容 (2歳)
6. 乳児保育の一日と育児担当制
7. 乳児保育の環境づくり
8. 遊びにおける保育者との関わり

9. 乳児期の健康、安全
10. 乳児保育の実践と合評会①
11. 乳児保育の実践と合評会②
12. 乳児保育の実践と合評会③
13. 乳児保育の実践と合評会④
14. 乳児への関わりの基本
15. 育ちの見通しをもつことについて

まず第1回授業で絵本『あやちゃんのうまれたひ』^{注2)}を用い、こどもが生まれる日、また生まれてすぐの様子を知り、乳児を育てるためにはいろいろな乳児用品、そして配慮、関わりが必要であることを学んだ。2～5回授業では、赤ちゃん人形も用いながら、乳児(0,1,2才児)の発達とそれに基づく乳児保育の内容について学び、6～7回ではこどもと保育者との信頼関係を形成しようとする育児担当制^{注3)}について説明した。第7回(2014.5/23)では「乳児保育の環境作り」のテーマで、第8回(5/30)は「遊びにおける保育者との関わり」のテーマで授業をし、その中で具体例としてわらべうた遊び、伝承遊びについて取り上げた。その際、入学前レポートの記事「伝承遊びの魅力引き継いで」^{注4)}を再読し、伝承遊びの定義、伝承遊びの種類を確認した。添削済みの入学前レポートを見直し、どのように伝承できるのかを考えられるようにした。これを受けて、第10回(6/13)授業「乳児保育の実践と合評会①」では「えかきうた大会」、続いて第11(6/20),12(6/27),13(7/4)回授業「乳児保育の実践と合評会②～④」では、「0,1,2才児にしてあげたい、してみたい伝承遊び発表会(以下、伝承遊び発表会と記す)」と題して、一人ずつ、伝承遊びの具体例を発表し皆で一緒にしてみる、ということをした。えかきうたは黒板一面に貼った模造紙に一人ずつ順に歌いながら描いた。伝承遊び発表会では、いないいないばあ遊び、にらめっこ、ひざのせ遊び、かごめかごめ、押しくらまんじゅう、折り紙、お手玉、ぶんぶんごま、他いろいろな遊びを体験した。それぞれの発表に際して、事前に発表内容をワークシートに記入させておき、全員のものを印刷し冊子にして配布した。第14回授業では「乳児への関わりの基本」をテーマとして、発表した伝承遊びが乳児向けであったかどうかを検証した。上記到達目標のi iiを踏まえて、iiiの実践を目指した。

第2回目以降の授業は、ワークショップを取り混ぜ

るため、保育実習室で行った。

2. 伝承遊びについて

取り上げた記事「伝承遊びの魅力引き継いで」では、伝承遊びを、こどもの集団の中で自然発生的に生まれ年長者から年少者へと代々共有されてきた遊びとし、木登り、虫取りのような自然とのふれあい、かくれんぼ、陣取りのような集団遊び、お手玉、けん玉などのおもちゃ遊び、「かごめかごめ」や「だるまさんがころんだ」のような歌を伴うわらべうた遊び、他、多様な種類があるとしている。本田はこれらの遊びは「相互主体性」を含むと指摘する³⁾。そのことは、例えば鬼ごっこのように、追う者と追われる者の交代による関係性の更新によって、またかくれんぼのように隠れて待つ者の孤独と、探し求める者の孤独が、見つかる瞬間に解消されることによって、知ることができる。つまり、それぞれの伝承遊びは一定の方法とルールを持つのであるが、そこでの役割は固定したものではなく、遊びの進行によって変わっていく。大人と幼少児が遊ぶ場合でも、この役割交代が遊びの中で生じていく。「いないいないばあ」のような原初的な遊びを保育者が始発するにしても、こどもの側が手で覆った顔を明らかにする瞬間を期待して「ばあ」と声をあげ、さらにはもう一回しようとアピールして遊びのイニシアティブをとるのである。こども自身が自発性と自己活動性を発揮し遊びをリードするように、保育者は自らの役割を従属的な立場に移していくと小川が述べた通りである。さらにこの環境はこどもにとって見て真似る対象となっているのである⁴⁾。

すでに提出された入学前レポートでは、学生らは本記事を要約し、自分の経験も照らし合わせて、伝承遊びが乳幼児にとってどのような意味があるのか考え記した。しかし実際に声をだし、動きながら自らの伝承遊びの経験を思い出したのではない。さらには本記事にもあるように、都市化、核家族化で伝承遊びをあまり見かけなくなった状況内で育ってきた学生らがどのような伝承遊びを記憶しているのかも定かでない。そこで、伝承遊びを実際に仲間と共にしてみる機会を持ちたいと考えた。

3. 授業内で伝承遊びを取り上げるねらい

乳児保育の現場では伝承遊びを乳児向けに用いてい

くことが必要となる。乳児保育の現場では、まず保育者がこどもに日常生活のなにげない所作の中で遊びかけ、それにこどもが応え、さらに保育者が応えるという相互応答的な関わりになっていく。そこで授業内で伝承遊びを取り上げ、遊びによって相互主体的な関係が生じることを体験したいと考えた。

授業内で仲間と共に伝承遊びをすることは、保育場面を想定することでもある。つまり、学生が保育場面をイメージして遊びを提示し進めていくのであるが、そこに興味を向け参加するこどもの心の動きをも考えていく必要がある。複数のこども達が活動し刻々と変化していく状況の中、保育者はどのように判断して進めていくのだろうか考える機会ともなる。

本授業内で伝承遊びを取り上げるねらいは次の2点である。1点目は、学生に伝承遊びの魅力を知ってほしいことである。2点目は伝承遊びを仲間と共にすることによって、自分、こども、保育者、の3者の立場から保育場面をイメージしてほしいということである。

なお、本授業内では「えかきうた大会」を行い、続いて「伝承遊び発表会」を設定した。1年生が初めての発表をするにあたり、歌いながら描く、つまり、声と動きとが共に提示されるえかきうたを取り上げたいと考えたのである。えかきうたは伝承遊びの一つであるが、発表を別設定としたのはそのためである。

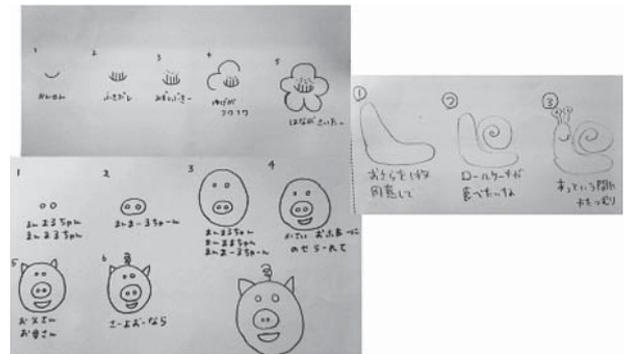
Ⅲ. 伝承遊びの発表

1. 「えかきうた大会」の実際

歌いながら、その歌詞の指示通りに描いていくと絵が完成する遊びである。加古里子は「絵かき遊び」と呼んだのであるが、その歌詞が韻をふみ、対句を形成して詩形をかたどり、みずみずしいユーモアを包含した総合芸術のこども版、とその魅力を語っている⁵⁾。小泉のわらべうたの分類によるとえかきうたには、字(文字、数字)のみを用いて描くもの、ものの形によって描くもの、字とものの形の混合したもの、字を書きあげるもの、の4種がある⁶⁾。描く工夫と創意、描きつつある過程のわくわくした心境を楽しんでいるのである。

「えかきうた大会」をするにあたり、第7回授業時(2014.5/23)に、「2才児に描いて見せてあげたいえか

きうたは」と問いかけた。歌の1フレーズが一筆になることを、例をあげて伝えた。そしてワークシートを配布し、選んだえかきうたを他者に伝えられるように記して提出するように伝えた。ワークシート原稿は印刷し、冊子にして配布した。えかきうた大会は黒板一面に貼った模造紙に発表者が色クレヨンを選び、歌いながら描いた。他の学生は見ながら手元の用紙に同じように描いてみた。順に描き進め、時間の最後には模造紙一面にえかきうたの絵が並んだ^{注5)}。



(えかきうた ワークシートの記入)



「えかきうた大会」

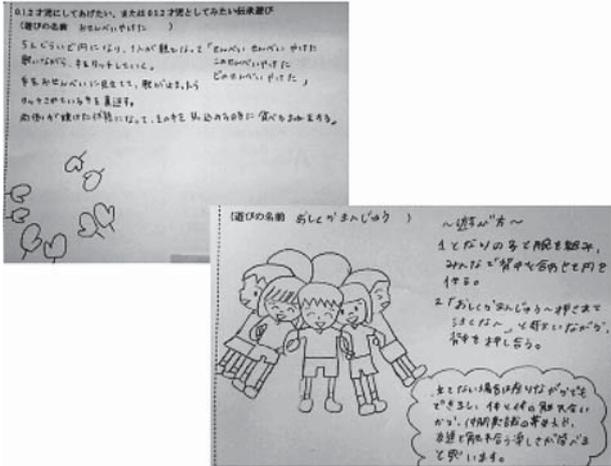
2. 「伝承遊び発表会」の実際

第8回(2014.5/30)には、0.1.2才児クラスのできる伝承遊びの実際として、新聞紙のかぶと作り、タンポポの綿毛吹き、草花遊び、花はじき、わらべうたあそび数種を紹介した。その後「0.1.2才児にしてあげたい、してみたい伝承遊びは」と問いかけ、ワークシートに記してくるよう伝えた。「伝承遊び発表会」の予告をし、第11(6/20),12(6/27),13(7/4)回の3日間に分けてするため、くじで発表日、順を決め、プログラムをつくった。各日の発表者は11人であった。

「保育実習室」は、保育室を模した実習室である。4~6人で座れる小机を設置しグループワークができる空間と、動きながら、また車座になれる空間がある。保育実習室での授業は、着席し理論学習をし、すぐに体を動かして実践してみること、その往還と繰り返し

が可能である。靴を着用しないので、自在に床の上で活動することができる。

各自が記入したワークシート原稿を発表割り当て日ごとにまとめ、冊子にして配布した。発表者には5分間の持ち時間を十分に活用するように伝えた。遊びの内容によっては短い時間で足りるものもあったが、5分間は発表者に任せた。繰り返し何回も行い、学生らとの応答で進める者もいた^{注6)}。



(伝承遊び ワークシートの記入)

3. 乳児保育における伝承遊び実践の検証

第14回授業では、各自の発表について振り返りを行った。発表した伝承あそび、発表の準備、発表についての3項目で振り返りシートに記入した。

IV. 結果

1. 振り返りシートによる検証

授業者は、第14回授業で各自が発表したことをどのようにとらえているのかを文章で記してほしいと考えていた。しかし、できた、できなかった、と端的に記す学生が多かった。

2. 小テスト内設問による検証

(1) 小テスト内設問

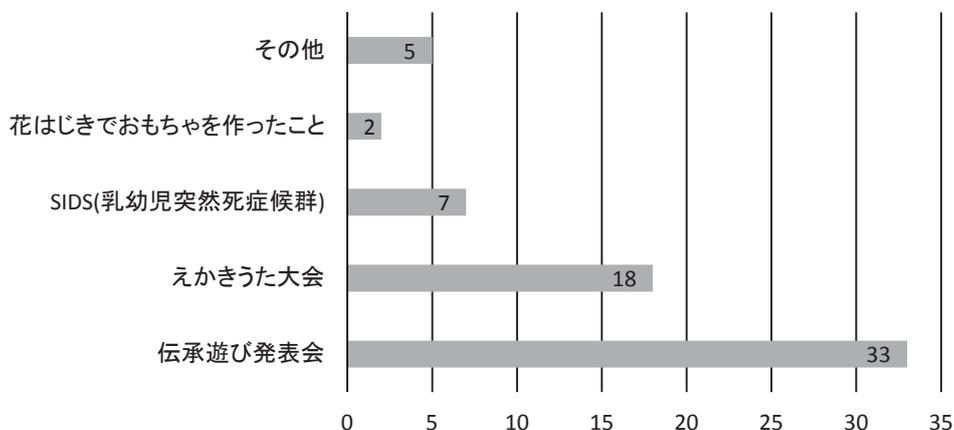
第15回目授業内で、まとめの小テストを行なった。出題は5問であり、うち1問は授業全体の振り返りとして「乳児保育Iの授業でもっとも印象に残った内容とその理由を述べてください」であった。この問いに対して、18名が「えかきうた大会」、33名が「伝承遊び発表会」を挙げた。受講者65名中51名が、えかきうたを含む伝承遊びをあげたことになる。

これらの回答記述から、学生が伝承遊びの魅力をどのように感じたか、また伝承遊びの発表によって、学生とこども、保育者、の3者の立場から保育場面をどのようにイメージしたのかを読みとっていきたい。

なお学生には、個人が特定されないことを条件とし、授業研究の一環として資料使用することについて伝え、了承を得た。

表1

もっとも印象に残った内容



回答数: 65

その他: 「2才児の発達」「赤ちゃん人形でおむつ交換」「新聞紙でかぶとをつくったこと」「カルタ」「七夕」と各1回答ずつあった。

(2) 抽出の方法

もっとも印象に残った内容として、えかきうたを含む伝承遊びをあげた51名の、それぞれ理由についての記述をもとにし、Ⅱ-3で記した筆者のねらいと照合させると〈伝承遊びの魅力〉への気づき、〈学生の立場〉〈こどもの立場〉〈保育者の立場〉からの記述がみられる。さらには〈今後の課題〉についての記述も見られる。これら5種を抽出する。抽出の例を表2にあげる。尚、以下の表2~7における学生番号は、〈伝承遊びの魅力〉〈学生の立場〉〈こどもの立場〉〈保育者の立場〉〈今後の課題〉の順にそれぞれの学生の記述を並べ、さらに複数項目の記述がある者から順に並べた全員の表の昇順番号である。

(3) 抽出の結果

〈伝承遊びの魅力〉

〈伝承遊びの魅力〉についての記述は21人に見られた。表3は抽出した記述一覧である。

遊びの歌詞の地方による違い、メロディ、音程の違い、遊びのバリエーションに対して、学生はおもしろさを感じている。実際に、指先を使い、大きく体を動かし、声を出して体験したからこそ感じられた伝承遊びの魅力であろう。これは記事「伝承遊びの魅力引き継いで」をもとに記した入学前レポートでは浮かび上がってこなかったことである。一方、入学前レポートで伝承遊びについて考察を記したにも関わらず、何が伝承遊びと呼ばれるものなのか知らなかったという学生が存在する。今回、実際に体を動かし声を出し、仲間と共に活動することによって理解できた。

〈学生の立場〉

〈学生の立場〉からの記述は30人に見られた。一覧を表4に記す。

伝承遊びの発表会は「前でやってくれるのを見ながら自分もする」という仕方に進んだ。つまり、どの学生も遊びの主体として参加した。見ているだけという

表2 抽出の例

学生2

もっとも印象に残った内容	その理由（学生の記述）				
伝承遊び	昔から受けつがれている遊びなので知ってる遊びもたくさんあったけど知らなかった遊びをたくさん知れたことがうれしかったからです。知ってる遊びでも地方とかによって言い方や遊び方が違ったりさまざまなバリエーションがあっっておもしろいなと思いました。これからもまだまだ受け継がれていく遊びだと思うし、まだまだ知らない遊びもあると思うからこれからももっと知って伝承遊びの楽しさをもっと知りたいと思いました。				
項目	〈伝承遊びの魅力〉	〈学生の立場〉	〈こどもの立場〉	〈保育者の立場〉	〈今後の課題〉
記述文より項目別取り出し	地方とかによって言い方や遊び方が違ったりさまざまなバリエーションがあっっておもしろい	知らなかった遊びをたくさん知れた	/	/	伝承遊びの楽しさをもっと知りたい

学生22

もっとも印象に残った内容	その理由（学生の記述）				
えかきうた大会	知らない歌もみんなと一緒に歌を歌って協力してたり楽しみながら歌えました。…子ども達も楽しめると思うのでぜひやってみたいと思いました。…同じ曲が並んだときも、工夫すればいいのだという事を学ぶことができた				
項目	〈伝承遊びの魅力〉	〈学生の立場〉	〈こどもの立場〉	〈保育者の立場〉	〈今後の課題〉
記述文より項目別取り出し	/	みんなと一緒に歌を歌って協力してたり楽しみながら歌えました。	子ども達も楽しめると思う	ぜひやってみたいと思いました。…同じ曲が並んだときも、工夫すればいいのだという事を学ぶことができた	/

表3 〈伝承遊びの魅力〉についての記述一覧

学生	もっとも印象に残った内容	〈伝承遊びの魅力〉についての記述
1	伝承遊び	指先を使い細かい作業をすることにより頭を使ったり、大きく体を動かしたり、声を出したりする遊び。単純な遊びと思いきや、とても深いものであると感じました。
2	伝承遊び	地方とかによって言い方や遊び方が違ったりさまざまなバリエーションがあっておもしろい
3	伝承遊び	同じ伝承遊びでもみんな少しずつルールとかが違い、それぞれに個性があっておもしろかった。
4	えかきうた大会	絵描き歌だけでも様々な種類がある
5	伝承遊び	何が伝承遊びと呼ばれるものなのか知らなかった。実際に触れ合って理解することができた
6	伝承遊びと えかきうた大会	絵かき歌は種類が多いんだな
7	伝承遊び	伝承遊びは地域によって多少変化があるというのも面白いなと思いました。
8	えかきうた大会	同じ絵かき歌をするということになっても一人ひとり全く違っていた
9	えかきうた大会	いっぱいあるんだなあと思いました。
10	伝承遊び	このまま廃れていくのはさびしい気がした。
11	えかきうた大会	同じ絵なのに描く人が違うだけで全然違った絵になっていました。
12	えかきうた大会	一見難しそうな絵が描けるということが魅力的で面白かったからです。
13	伝承遊び	私は京都市出身ではないので知らない遊びもありましたし、地方によって遊びの歌詞が違ったり、メロディ、音程が違ったりと方言のようでおもしろかったです。
14	伝承遊び	簡単に手に入るもので遊びを考えることは大事だと思う。
15	伝承遊び	それぞれの地域、場所によって異なっていたり、同世代なのに体験したもの、やっていた遊びも異なり、すごいと思いました。
16	えかきうた大会	同じ絵かき歌でも描いた人によって少しずつ違ったり特徴があったりして楽しく面白かった
17	伝承遊び	安全なやり方であったり、体を使って遊んだりする時はゆっくり歌を歌ったりして遊べる
18	乳児の楽しめる 伝承遊び	ひざの上で歌いながら揺らしたり、顔のパーツの上だったり、乳児さんも楽しめる遊びをたくさん知ることができた
19	伝承遊び	私が小さい頃はこまでも竹馬でもしゃぼんだまでもたくさん遊びました。
20	えかきうた大会	友達と見比べるとちょっとずつ違いがあって面白かった。
21	伝承遊び	地域で微妙に違う

表4 〈学生の立場〉からの記述一覧

学生	もっとも印象に残った内容	〈学生の立場〉からの記述
1	伝承遊び	友達と教え合いをすることによって自然と会話が増えた。実際に子どもの時のように遊ぶことができた
2	伝承遊び	知らなかった遊びをたくさん知れた
3	伝承遊び	クラス全員が伝承遊びを発表して行って自分が知らない遊びや知ってる遊びでもみんなと楽しく遊べた
5	伝承遊び	童心を思い出すことができ、たのしかった。
6	伝承遊びとえかきうた大会	皆がノリよく私の話を聞いてくれたので楽しかった
7	伝承遊び	他の人の発表を聞いて発表の仕方などを学ぶことができて良かった
8	えかきうた大会	絵かき歌をすることによって歌の楽しさと絵を描く楽しさを学ぶことができた。
9	えかきうた大会	絵かき歌はただ絵を描くだけではなく、歌いながら描くので少し緊張しましたが、いっぱい絵かき歌が知れて楽しかったです。
10	伝承遊び	みんなが発表した伝承遊びは新しい発見や、こういう遊び方を知ることができとても勉強になった。
22	えかきうた大会	みんなと一緒に歌を歌って協力していたり楽しみながら歌えました。
23	えかきうた大会	自分が前に出て発表する時はとても緊張してたけど、おわってから「おおー！」という言葉が出てきてよかったと思った
24	えかきうた大会	前でやってくれてるのを見ながら自分もやるということがとても楽しかった
25	伝承遊び	私たちも実践することで、遊びの楽しさを理解できた
26	伝承遊び	実際自分が体験してみて発見や気づきがあった
27	伝承遊び	伝承遊びのレパトリーふえてよかった。
28	伝承遊び	みんなで仲良く協力してくれたので自分も気持ちよく発表することができました。
29	えかきうた大会や伝承遊び	みんなと楽しく遊んだり話したり、作ったりすることでいろいろなアイデアなどができていた
30	伝承遊び	一人ひとり何を発表するか考えてきて発表するのが楽しかったです。
31	伝承遊び	人を注目させる、人に理解してもらう、まとめる、というのが全くできませんでした。
32	伝承遊び	あまり普段話さない人とも話してみたり、授業でみんなが笑顔だったのがとても印象に残っています。
33	伝承遊び	多くの種類の遊びを経験することができた
34	0.1.2歳児の伝承遊び	みんなが一番盛り上がった授業だった。0.1.2歳児での遊びがこんなにもあるんだなって思いました
35	えかきうた大会	自分のバリエーションも増えたと思います。みんなでかけ声でうたうやつもみんな参加できて楽しかった
36	えかきうた大会	みんなで盛り上がっていった。本当に子どもになったような気持ちでできた。とても楽しくてクラスの仲を深めることができた。

37	伝承遊び	あまり人の前で発表という経験がなかったので、すごくいい機会を与えてもらったなと思いました。
38	えかきうた大会	子どもの前で直接声を出して実演することの大切さを学ぶことができた。大勢の前で歌いながら絵を描くというよい体験をすることができた。
39	えかきうた大会 と伝承遊び	楽しみながら知識が増えていきました。自分が発表する際も、人前で遊びを発表する機会があまりないので、緊張したけど、みんな話を聞いてくれて一緒に参加してくれてうれしかった
40	伝承遊び	ワクワクもしたけど緊張した。
41	伝承遊び	これも伝承遊びなのかと思う遊びがたくさんありました。
42	伝承遊び	たくさんの伝承遊びを知ることもできたとし、工夫ができることも学べた。自分ひとりでは考えられないことを人の発表から学ぶことができました。

学生はおらず、実際に参加し実践することで、遊びの楽しさを感じ、みんなが笑顔でいたことにも気づいた。また、伝承遊びの発表会によって楽しくクラスの仲を深めることとなった。「緊張したけど、みんな話を聞いてくれて一緒に参加してくれて」、相互の協力のもと気持ちよく発表することができたのである。

〈こどもの立場〉

〈こどもの立場〉からの記述は表5のように5人に見られた。

遊びの主体として参加しながら「わくわくする感じや、完成した時の驚き」、つまり遊びによる心の動きを体験することができた。こどももそのように心を動かしていくのだろうということへの想像と理解である。一方、「こどもの立場になりどのような点が難しいか」も知る事ができた。

〈保育者の立場〉

〈保育者の立場〉での記述は18人に見られた。表6

に一覧を示す。

まず発表者は、皆の視線を受けて緊張し、「歌いながら何かをするということは本当に難しい」と気づいている。また同じ遊びでもバリエーションがあり発表の仕方が違っていたことから、保育者がこどもに伝える方法は一つではないことも知っていく。そして「どうすれば分かりやすく丁寧に伝えることができるか」とこどもに適切に提示する保育者の立場に身を重ねている。

〈今後の課題〉

〈今後の課題〉については13人の記述があった。表7に記す。

「この楽しさを保育者になった時こども達に伝えられたらいい」など、自らが保育者になる日には活かしたいという抱負を記している。さらには保育の場で伝承遊びをしていくことによって、その子らがまた次の世代に受け継いでいく者となり、非常に長い期間で伝承されていくことになる気づいた学生もいた。

表5 〈こどもの立場〉からの記述一覧

学生	もっとも印象に残った内容	〈こどもの立場〉からの記述
12	えかきうた大会	難しそう絵でもすぐに描けた
22	えかきうた大会	子ども達も楽しめると思う
23	えかきうた大会	どんなものがかけるかというわくわくする感じや、完成した時の驚きがすごくあった
24	えかきうた大会	子どもたちもどんどんできあがっていく絵を見て「あ、自分も書けるんや」と思った
43	伝承遊び	友達の発表を聞くことでも自分がこどもの立場になりどのような点が難しいかなど感じる事ができた

表6 〈保育者の立場〉での記述一覧

学生	もっとも印象に残った内容	〈保育者の立場〉での記述
1	伝承遊び	どうすれば分かりやすく丁寧に伝えることができるかと考えることができた
4	えかきうた大会	楽しむだけでなく自分自身のこれからの「持ちネタ」にもなった
11	えかきうた大会	みんなの前でマイクを使って先生みたいなことをしたのがはじめてだったからとてもドキドキしていました
22	えかきうた大会	ぜひやってみたいと思いました。…同じ曲が並んだときも、工夫すればいいのだという事を学ぶができた
25	伝承遊び	乳児にはできないなとか、これなら5歳児ならできそうなど考えながらできました。
26	伝承遊び	どうすれば子ども達ももっと楽しんでくれるかなどイメージしやすい。
27	伝承遊び	みんなの前で教えるという体験もできた
28	伝承遊び	自分が保育士になったときに是非やってみたいと思うものがたくさんあった
29	えかきうた大会や伝承遊び	みんなの発表のやり方や話し方から学ぶことができました。みんなにわかるように説明しながらするという事は難しいということがわかった
30	伝承遊び	知らない遊びは自分のレパートリーにもなり、いろいろ勉強になりました。
31	伝承遊び	0～3歳児だった場合もっとすごいことになっていたなと思いました。何をするか、何をしてもらおうのかをあきらかにし、それにそって準備しなきゃ、先生というのは成り立たないと思いました。
43	伝承遊び	教える難しさやどのような言葉をつかうべきか
44	伝承遊び	少し恥ずかしかったけど保育の現場では必要なことだからやっというてよかった
45	えかきうた大会	案外緊張するもので、歌いながら何かをすることは本当に難しいものだと感じた。
46	伝承遊び	発表者の説明の仕方や用意などの行動もとても勉強になりました。
47	えかきうた大会	将来使えそうだなって思うものがたくさんあって同じものを発表している人が何人もいたのに、それぞれにいたりしておもしろかった
48	伝承遊び	私と同じしゃぼん玉を紹介してくれている人がいましたが、私とはまた違った発表の仕方でした。人によって発表の仕方が様々だと思いつても印象に残っています。
49	伝承遊び	自分と同じ伝承遊びでも工夫の仕方がたくさん種類ある。発表の仕方も子どもに向けてするようにしてる人がいた

表7 〈今後の課題〉についての記述一覧

学生	もっとも印象に残った内容	〈今後の課題〉についての記述
2	伝承遊び	伝承遊びの楽しさをもっと知りたい
3	伝承遊び	伝承遊びの楽しさや面白さを子どもと一緒に遊んで教えてあげたいと思いました。
4	えかきうた大会	クラス分の絵かき歌をまとめた用紙は宝物の一つとなった。
13	伝承遊び	また保育者になる者として昔から伝わる遊びにしかない楽しさ、おもしろさ、子どもの成長の発達を向上させてくれるもの等を次世代に伝えていきたいと思いました。
14	伝承遊び	人が発表していた伝承遊びをこれから先に活かせそうだと思います。
15	伝承遊び	大人になっても覚えていて、子ども達に行なってあげることで子ども達が大きくなった時に次の世代へと受け継がれていき日本の文化を学ぶことができたと同じに、伝承とはどのようなものかということをも身を持って実感することができた。
16	えかきうた大会	子どもにもこの楽しさを伝えてあげたいと思った。
26	伝承遊び	実際に体験したから思い出しやすい。
32	伝承遊び	今度は私たちが伝承遊びを子ども達と一緒に楽しんで遊び伝えていかなければいけないと思いました。
33	伝承遊び	将来現場に出たときに役に立つと感じた。
43	伝承遊び	伝承遊びを広めていきたいと思う
50	SIDS、ふれあい遊び	はやく子どもとしてみたいと思いました。
51	伝承遊び	この楽しさをこれから保育者になった時子ども達に伝えられたらいいなと思った。

V. 考察

本授業ではまず「えかきうた大会」を行った。続いて行った「伝承遊び発表会」では、宝探し、わらべうた遊び、お手玉、折り紙他、紹介され、えかきうた大会の発表時よりも、身体を動かし、一緒に遊んで進める学生の姿があった。見ているだけの学生はおらず、皆が共に参加し、仲間でやり方を見合い、遊びの楽しさを共有した。みんなが笑顔だった。この発表を通してクラスの仲を深めることができたと感じている。

その後、各自がどのように0,1,2才児にしてあげたい伝承遊びを選んだか、どのように準備して発表当日を迎えたのか、発表をどのように自己評価しているのかを振り返る機会を第14回授業時に設けたものの、十分な振り返りはできなかった。とくに0,1,2才児向けであったかどうか、については、0,1,2才児の発達

や興味と照らし合わせながら考察すべきなのであるが、まだ保育実習で乳児と関わったことのない1年生には考えにくいことであったと推察される。学生は考察するすべもなく、できた、できなかった、と端的に應えるしかなかったと考えられる。

一方、第15回授業内で行った小テストの一つの設問では、15回全ての授業を思い返して最も印象に残った内容とその理由を記してもらった。ここで65回答中、51名がえかきうたを含む伝承遊びの発表をとおして考えたことを、自分の言葉で記した。本稿で取り上げた学生の記述は、このように自由ではあるが制限時間のある中で表されたものであった。

保育者になる志を持った学生が、遊び文化の伝承のための自らの役割をどのように自覚していくのか、保育士養成教育においては学生の意識を育てていく必要がある。また、保育の場にはこども、保育者、そして

学生実習生といった、それぞれ思いを持った複数の者が存在し、状況は刻々と動く。今回、伝承遊びを仲間と共にすることによって、自分、こども、保育者、の3者の立場から保育場面をイメージしてほしいと願った。とくに0,1,2才児にふさわしい伝承遊びを実際にする中で、どのようにこどもは心を動かして楽しんでいくのか、また遊んでくれる大人への信頼感を確かめていくのかをイメージしてほしいと願ったのであった。

えかきうた、伝承遊び発表会をとおして学生は、地方によって遊びや歌が違い、遊び方の大枠はあるのだが遊びながら少しずつ変化していくという伝承遊びのありようを知ることとなった。1年生の学生にとっては、皆に向けての発表ということは大きな経験であった。懸命に遊びを紹介する発表者と、次はどのように変化するのかとわくわくした気持ちで参加している学生達との、緊張感ある相互主体的な関係が成立しつつあった。それは同じ空間で、モデルの動きをよく見ながら自らも同じように真似してみようとしていたことでもある。お互いのやり方を見合い、助言しあい、観察学習が生じていたといえる。

0,1,2才児という幼いこどもは、大人のまなざしを受け、声をかけてもらい、関わってもらおうということを繰り返し、安心して、それに応答するように育っていく。乳児保育におけるこどもと保育者の関係は、相互によく見て、心を動かし、伝えようとし、読みとろうと寄り添いながら充実していく。伝承遊びは、そのような関係性をひらく一つの手だてになるのではないだろうか。実際に声を発し、一緒に動いて体験したことが、こどもの育ちを支える保育の具体的内容となる。授業「乳児保育Ⅰ」で伝承遊びを取り上げる意義はここにある。

注

- 1) 本短期大学部では、1年次に保育士資格必須科目「乳児保育Ⅰ」を、2年次に選択科目「乳児保育Ⅱ」を開講した。
- 2) 浜田桂子『あやちゃんのうまれたひ』福音館書店 1984
- 3) 育児担当制とは、複数の保育者と複数のこどもが同時に生活する場面において、一人一人のこどもが

十分に保育者との意思疎通が図られるように、そのこどもに関わる保育者が担当として特定化されること。特定の保育者との継続的な相互作用により人への信頼感が形成されることを、人間としての育ちの基盤とする(阿部和子編『乳児保育の基本』p.124)。特に生活面(食事、排泄、睡眠)において担当保育士が援助を行う。

- 4) 「伝承遊びの魅力引き継いで」産経新聞,東京,朝刊 2013,9/25 を読み、乳幼児にとっての伝承遊びの意味をレポートに記した。
- 5)、6) 学生には、個人が特定されないことを条件とし、授業研究の一環として資料使用することについて伝え、了承を得ている。

参考文献

- 1) 稲貝祥子「『乳児保育』における保育学科学生作成の『3歳未満児の発達を促す手作りおもちゃ』作品展示報告」『下関短期大学紀要』28.2009.pp.113-126
- 2) 安田華子「保育者養成のための科目『乳児保育』の指導法-小麦粉粘土を用いた活動からの考察-」『名古屋女子大学紀要,家政・自然編,人文・社会編』60.2014.pp.211-218
- 3) 本田和子『子どもの領野から』人文書院 1983. p.16-35
- 4) 小川博久『21世紀の保育原理』同文書院 2005. pp.65-66
- 5) 加古里子『子どもと遊び』大月書店 1975.p.21
- 6) 小泉文夫編『わらべうたの研究 研究編』稲葉印刷所 1969.p.284

本稿は、その一部を第68回日本保育学会大会において、和田幸子「授業『乳児保育Ⅰ』における学生の学びと気づきについて～伝承遊びの発表に焦点を当てて～」として発表している。

